

令和5年度県立都市公園管理運営検討委員会における意見等への対応状況

【高田松原津波復興祈念公園】

委員からの意見	検討委員会時における指定管理者の回答	現在の状況
自然環境を活かした利活用策を進めてはいいか。	川原川エリアは階段から川に入れるようになっておりハゼ釣りが楽しめる。こういった利用を進めて良ければと思う。公園内の場所ごとに合わせた利用方法を考えていきたい。	カニの観察会は、2年目にして定員を超える申し込みがあった。 下宿定住促進住宅のビオトープは、ミズアオイ等、希少な水草の観察会を開催したところ、保全活動にも関心が高まっている。
利用者への更なる利便性向上と収益性の確保（電動キックボードの貸出等、何等かの収益につながる取組を進めてはどうか）。	国営追悼・祈念施設の周辺が自転車の乗り入れが禁止となっている。自転車の貸出は道の駅がサイクリングのツアー等を実施している。	陸前高田市が電動カートを用いたパークガイドの実証実験を行っている。 受入にあたっては、行為の許可に伴う公園構成施設との調整や、安全管理の助言等のサポートを行った。
市民連携の観点から、川原川が子どもたちに良い遊び場となっており、水辺での活動は有り得ると思った。	川原川公園と県立公園にまたがって、市民協働グループの催しでイベントを開催し、釣りやアユの塩焼等の振舞いを協働で実施した。 地元から追悼の場、鎮魂の場という意見もあり、こういった方向で進めるか、場所ごとに合わせた利用方法を、県や市、地元の方々と調整しながら検討したい。	水辺での活動について検討している「気仙川・川原川かわまちづくり計画策定協議会」にオブザーバーとして参加した。